

鳴門教育大学の教育等に関するアンケート

【平成26年3月実施：教育長，公立学校長】

＜分析報告＞

1 目的	1
2 方法	1
(1) 対象者	1
(2) 実施時期	1
(3) 教育長・学校長へのアンケートの内容	1
3 教育長・学校長へのアンケートの結果と考察	2
(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象	3
(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象	5
(3) 今後の教員の在り方を見据え，鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力	7
(4) 鳴門教育大学・大学院の教育内容について，良いと思われること， 改善すべき点又は要望	9

1 目的

本学の教育の状況について、デマンド・サイドの意見を把握することにより、教育の質の維持・向上及び教育研究体制の一層の充実を図ることを目的とする。

2 方法

(1) 対象者

徳島県内の教育委員会教育長，徳島県内公立幼・小・中・高・特別支援学校長：対象者489人，回答者327人（回収率66.9%）

(2) 実施時期

平成26年3月に，各教育長・学校長あてにアンケートを郵送した。

(3) 教育長・学校長へのアンケートの内容

- ①本学の学部を卒業した教員の全体的な印象について，4件法で回答を求めた。
- ②本学の大学院を修了した教員の全体的な印象について，4件法で回答を求めた。
- ③本学で伸ばして欲しい能力について，責任感，コミュニケーション能力，専門領域における知識など15項目を設定し，3件法で回答を求めた。
- ④本学の教育について，自由記述で回答を求めた。

3 教育長・学校長へのアンケートの結果と考察

平成19年及び平成21年並びに平成23年に、今回のアンケートと同じように本学を卒業・修了した教員に対する印象を徳島県内の教育長・公立学校長に尋ねている。

なお、平成23年度からのアンケートについては、今後の業務の改善により生かしやすいようにするため、これまでの5段階評価から4段階評価に変更し実施しており、平成25年度においても、この方法で行っている。

学部卒教員及び大学院修了教員ともに、全体的な印象を問う設問のすべてにおいて、肯定的な回答が6割を超えており、本学の学部卒教員・大学院修了教員が、県内の教育委員会や学校長から、一定の評価を得ていることがうかがえる。

その中でも特に評価が高い項目については、本学の教育課程のストロングポイントとして認識し、より一層の充実を図るための方策を取ることが望ましい。

なお、すべての設問において一定の評価を得ているものの、相対的に評価が低い項目については、原因を追究し、改善していくことが必要である。

また、改善が必要だと考えられる事項のうち、過去の調査結果においても同様の傾向が見られる事項については、過去の調査結果を受けての本学の対応が十分でなかった可能性も考えられ、今後更に対応を検討していく必要がある。

これまで、教育長・学校長へのアンケート結果について、学内外に周知し、教育の維持・向上及び教育研究体制の一層の充実を図ってきたところであるが、在学生への周知は十分ではなかった。

本アンケート結果は、在学生にとって、卒業・修了後に教職に就く（現職教員である大学院生にとっては、復職する）際に、学校現場からどのようなことを求められているかを知ることができる資料だと思われるため、在学生に対しても、本アンケート結果を周知することで、卒業・修了生に対する評価とともに、学校現場で求められていることを事前に知ること、修学への強い動機付けとなることを期待する。

(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象 (グラフ1)

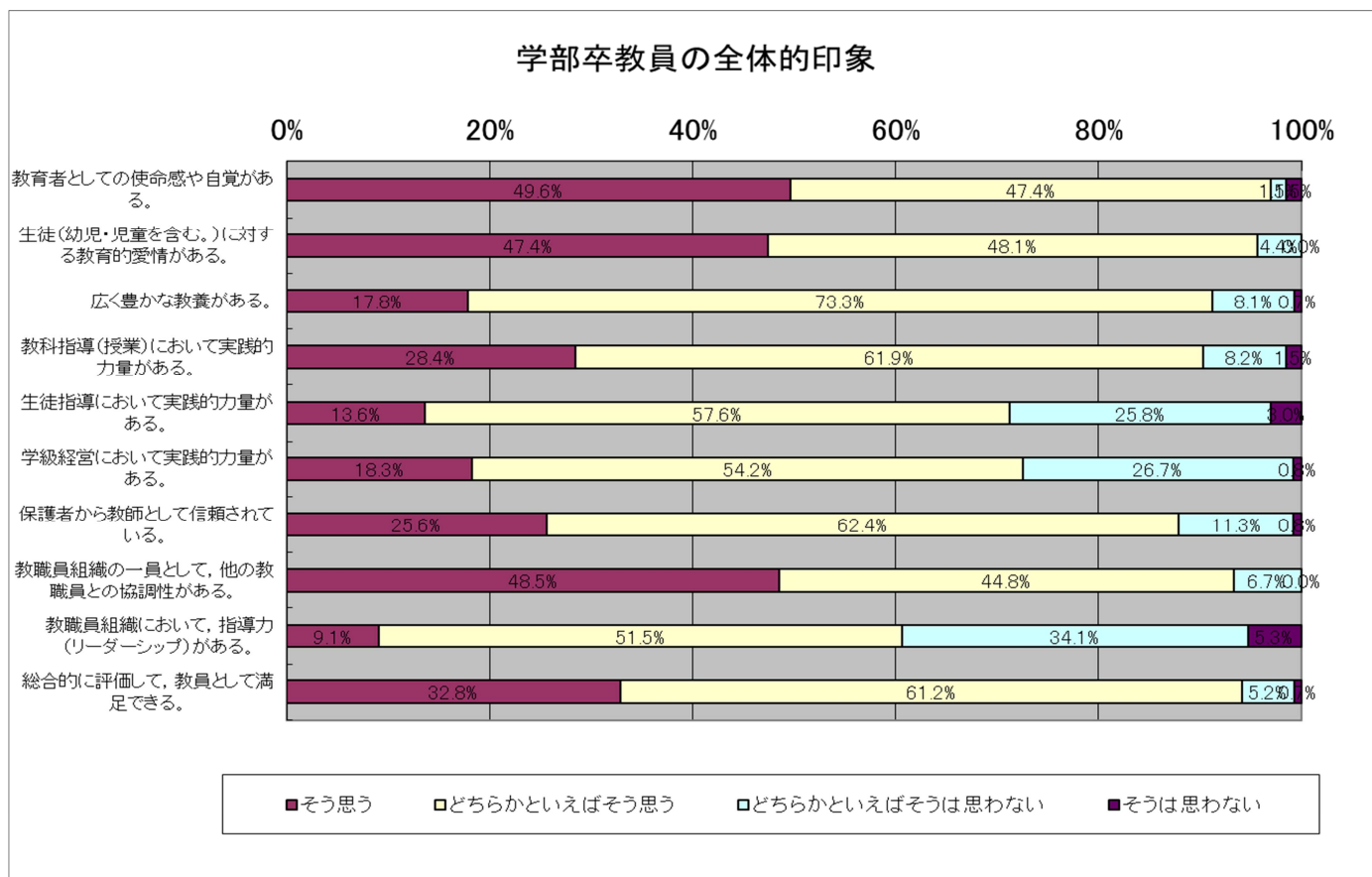
全ての項目で、肯定的な回答が6割を超えており、特に「教育者としての使命感や自覚がある。」「生徒(幼児・児童を含む。)に対する教育的愛情がある。」「広く豊かな教養がある」「教科指導(授業)において実践的的力量がある」「教職員組織の一員として、他の教職員との協調性がある。」「総合的に評価して、教員として満足できる。」では、肯定的な回答が9割を越えており、高い評価を得ている。これは、本学学部卒業生が真摯に教職に取り組んでいることが伺える。

相対的に、「教職員組織において、指導力(リーダーシップ)がある。」については、他と比較して、否定的な回答の割合が高いが、学部を卒業して5年以内の教員が指導力を発揮する立場でないことが影響していると推測できる。

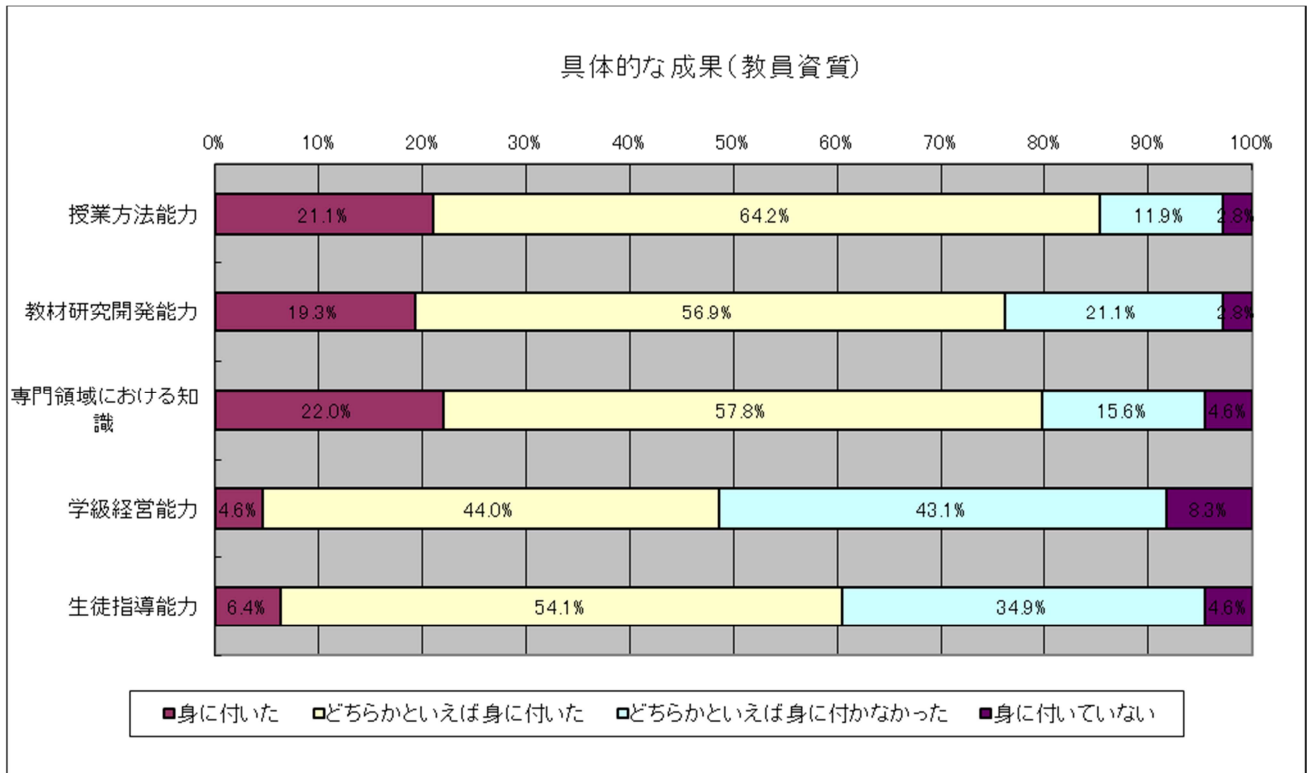
次いで、「生徒指導において実践的的力量がある。」「学級経営において実践的的力量がある。」が否定的な回答の割合が高い。この点については、「教科指導(授業)において実践的的力量がある。」に比べても否定的な回答の割合がかなり高くなっており、本学学部卒教員の課題が示されていると言える。

生徒指導及び学級経営に係る能力については、卒業生へのアンケート結果でも、例年、他の項目に比べ「身についた」とする回答の割合が低い傾向があり(グラフ2参照)、本学の教育課程の課題であると考えられる。

特に、生徒指導力については、ディプロマポリシーにも掲げている事項であり、対応について十分に検討する必要がある。



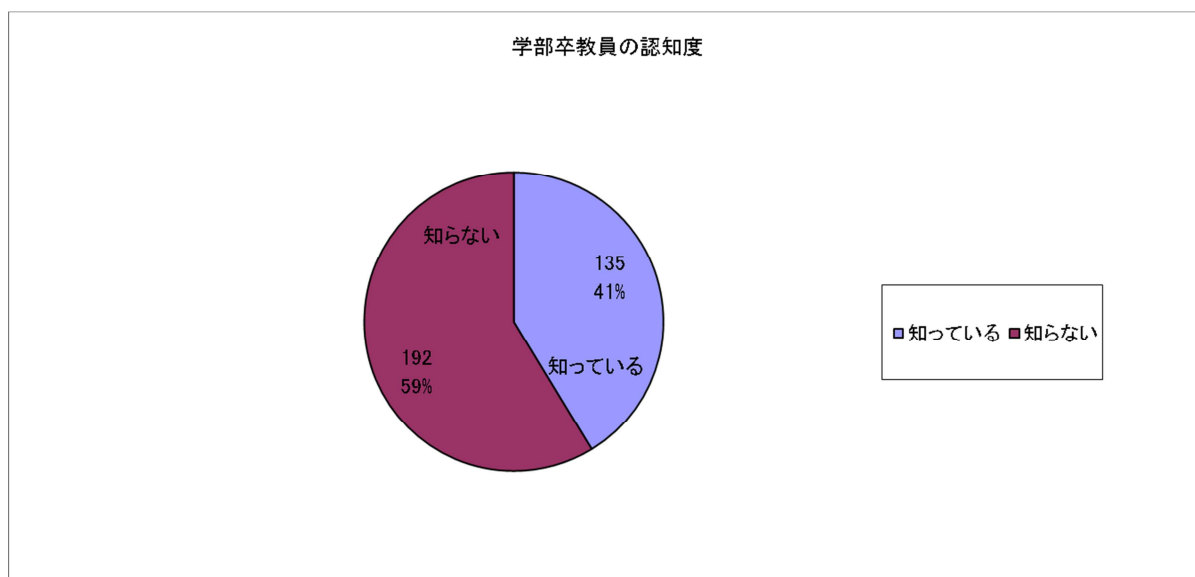
(グラフ1)



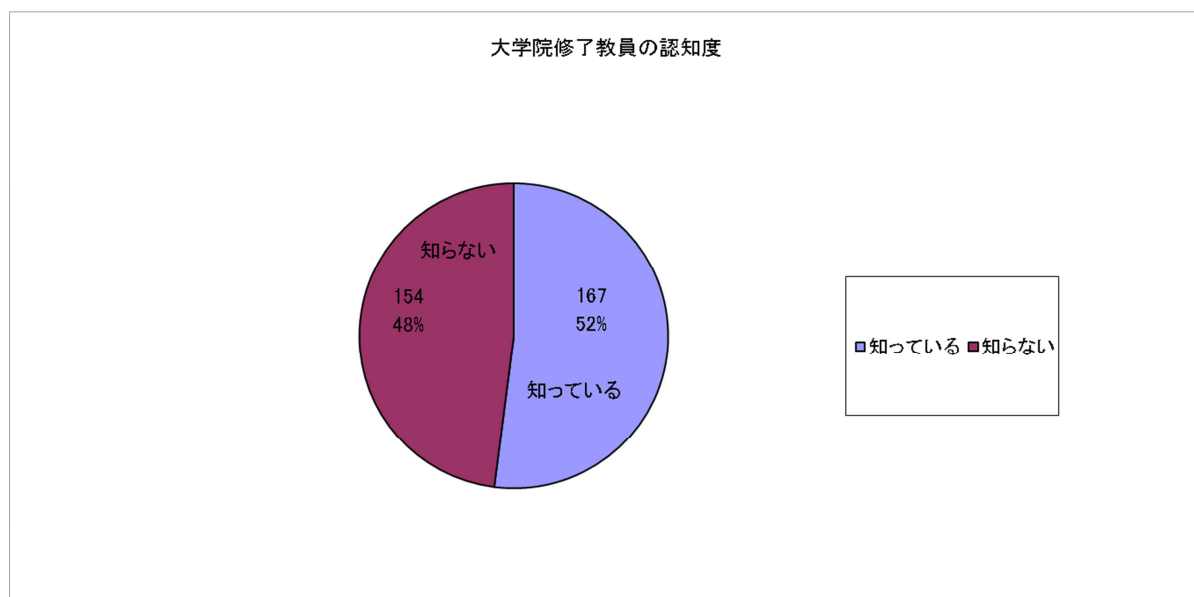
(グラフ2 (平成26年3月実施 卒業生に対するアンケート結果より))

(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象 (グラフ4)

過去5年以内の本学大学院修了教員の認知度について、徳島県教育委員会から、例年35～40人程度の現職教員が派遣されていること及び学部卒教員の認知度を考慮すると、本来あるべき認知度よりも低いのではないかと推測できる(グラフ3-1, 3-2参照)。このことから、本アンケートへの回答にあたっては、必ずしも県教育委員会から派遣された現職教員まで考慮した回答ではない可能性が高いことを考慮しておく必要がある。



(グラフ3-1)



(グラフ3-2)

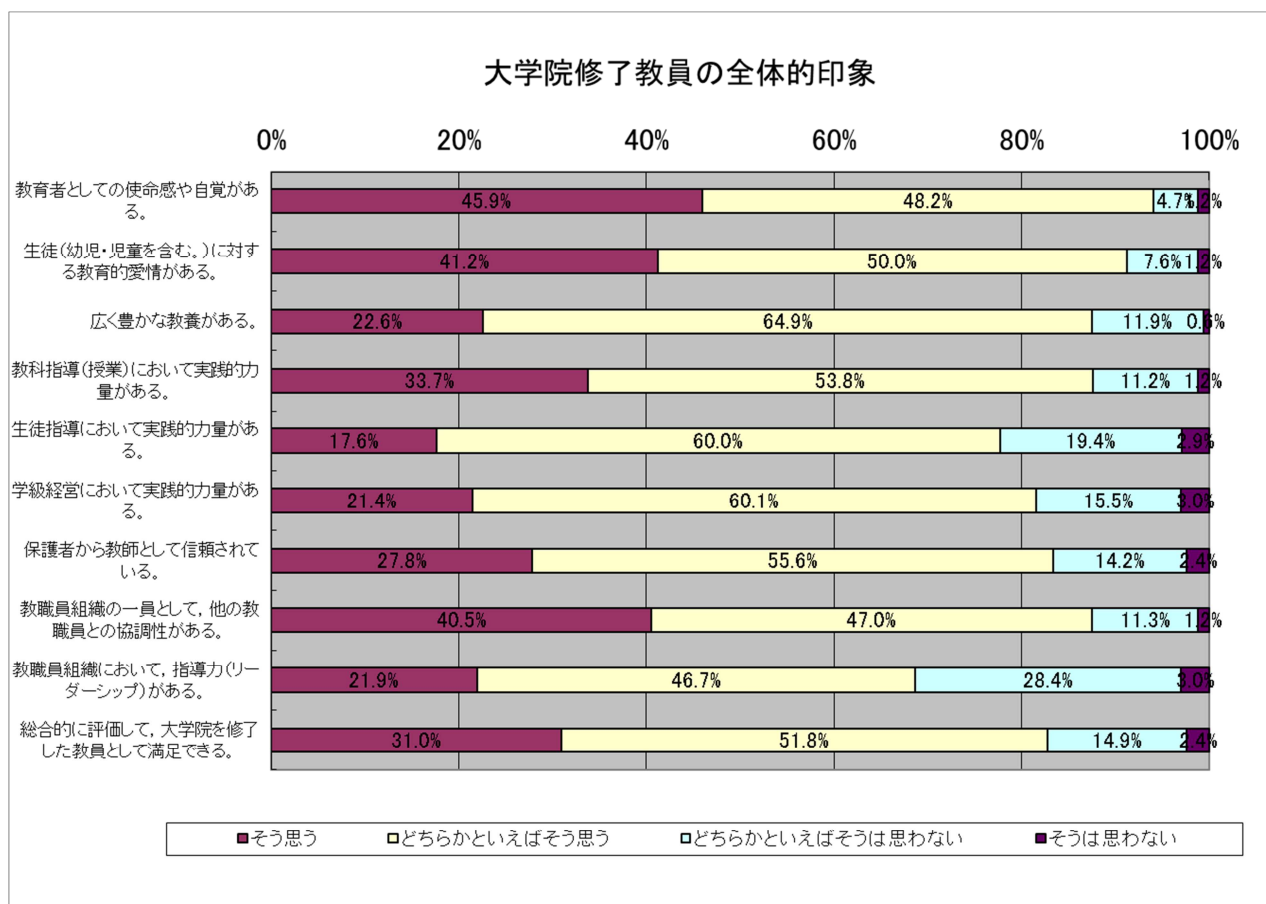
「総合的に評価して、大学院を修了した教員として満足できる。」は肯定的な回答が8割を越えており、一定の評価を得ていると言える。

特に「教育者としての使命感や自覚がある。」「生徒（幼児・児童を含む。）に対する教育的愛情がある。」においては、肯定的な回答が9割を超えており、本学大学院修了生が真摯に教職に取り組んでいることが伺える。

相対的に、「教職員組織において、指導力（リーダーシップ）がある。」については、学部卒同様に、否定的な回答の割合が高い。教育委員会派遣の現職教員については、本学大学院修了後にリーダー的役割を期待されるが、教育長及び学校長等の期待に十分に答えられていない可能性が指摘できる。

ただし、本学大学院修了教員の認知度の回答から、教育委員会派遣の現職教員まで考慮した回答になっていない可能性が考えられ、この点に留意が必要である。

次いで、「生徒指導において実践的力がある。」「学級経営において実践的力がある。」が否定的な回答の割合が大きい。この点については、「教科指導（授業）において実践的力がある。」に比べても否定的な回答の割合が高く、本学大学院修了教員の課題が示されていると言える。



(グラフ 4)

この結果に関しては、学部卒業者、大学院修了者ともに同様の結果となっていることから、学部・大学院共通の教育課題が浮かび上がってきているため、何らかの改善を図る必要があるのではないかとと思われる。

(3) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力(グラフ5, 6)

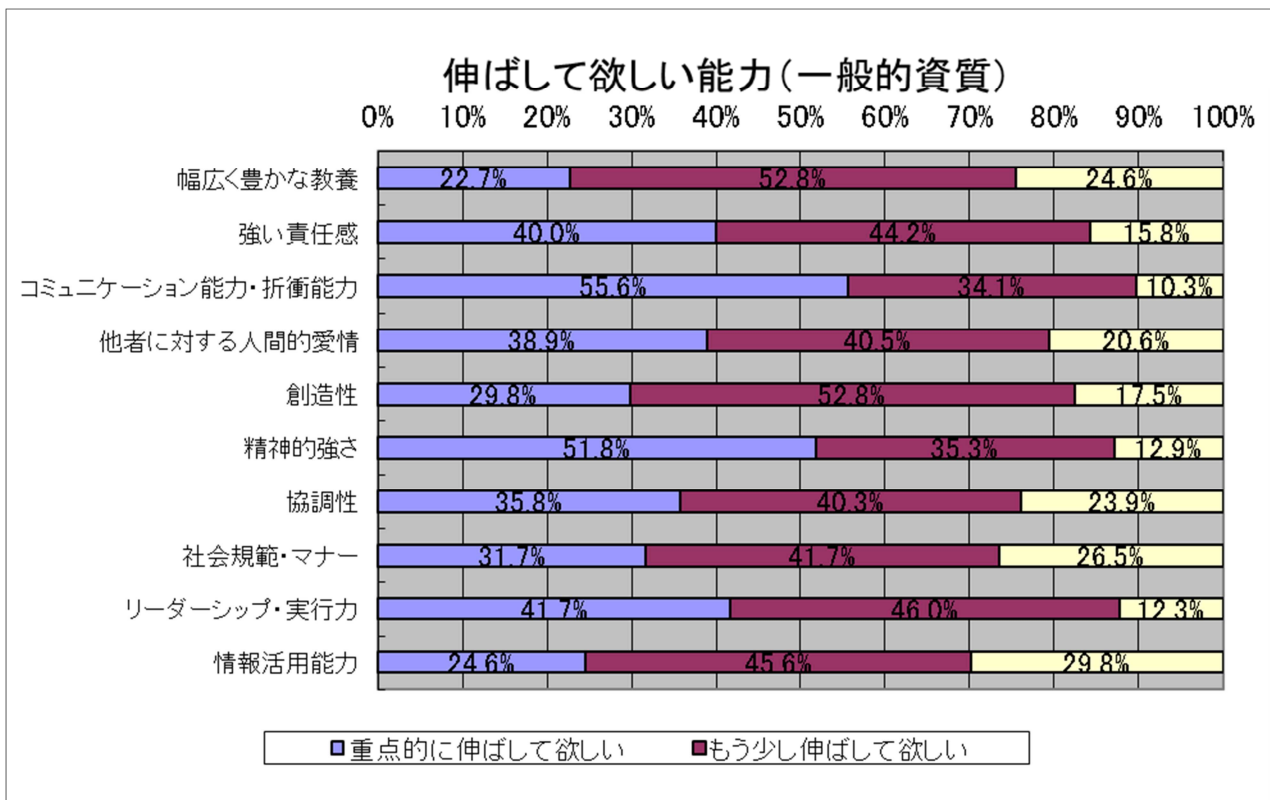
「一般的資質」のうち、「コミュニケーション能力・折衝能力」及び「精神的強さ」が「重点的に伸ばして欲しい」とする割合が半数を超えている。

一方で、「協調性」は、「重点的に伸ばして欲しい」とする割合が20ポイント近く低くなっている。また、(1)(2)のとおり、学部卒教員・大学院修了教員ともに、全体的な印象として「教職員組織の一員として、他の教職員との協調性がある」の項目で肯定的な回答が9割前後と高くなっている。

これらのことから推察すると、学校現場において、周りの考えに合わせるだけでなく、自分の考えを論理的に相手に伝えるための能力や、意見の相違点を調整する能力が求められていると考えられ、本学において、それを身につけさせることが期待されていると言える。

ほかに、「リーダーシップ・実行力」「強い責任感」が「重点的に伸ばして欲しい」とする割合が高い。

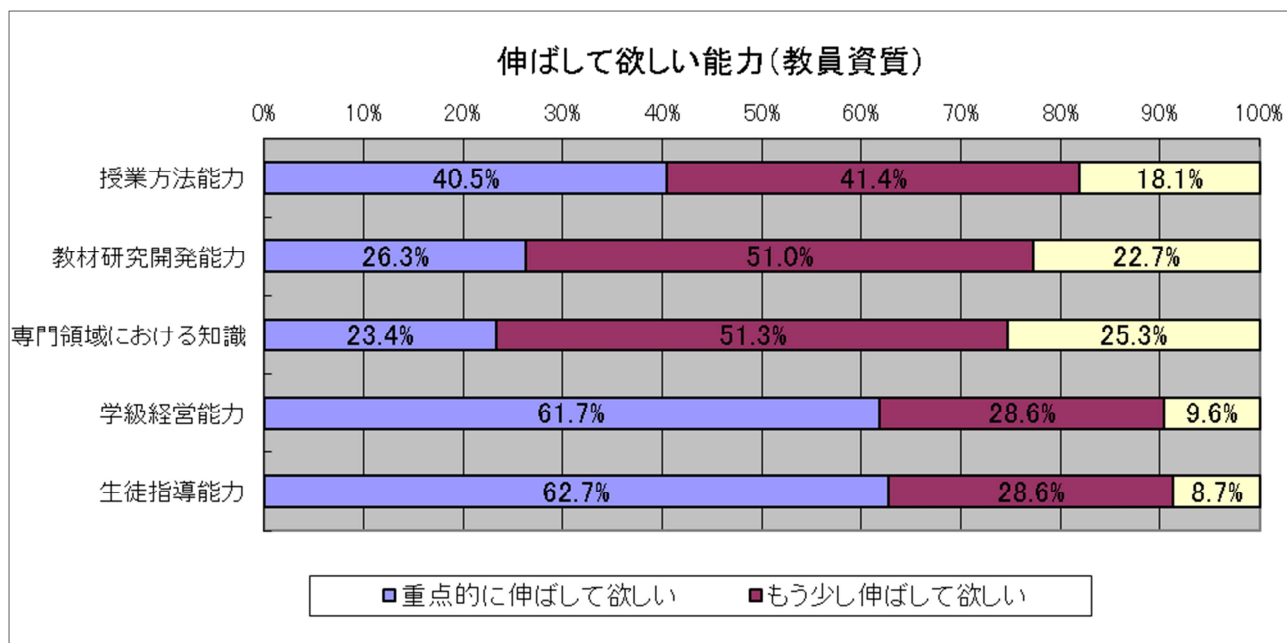
これらについては、学生が教職に対する理解をより深められるようにしたり、より強い志望動機を持てるようにしたりする仕組み作りが必要だと考えられる。



(グラフ5)

「教員資質」については、「学級経営能力」「生徒指導能力」が他の項目に比べて「重点的に伸ばして欲しい」とする割合が高い。

これらは、学部卒教員・大学院修了教員の全体的印象で否定的な回答が多かった項目と重なる。また、過去の調査においても、他の項目よりも「伸ばして欲しい」とする割合が高い傾向があり、学校現場において本学卒業・修了教員に強く求められている能力だと推察される。

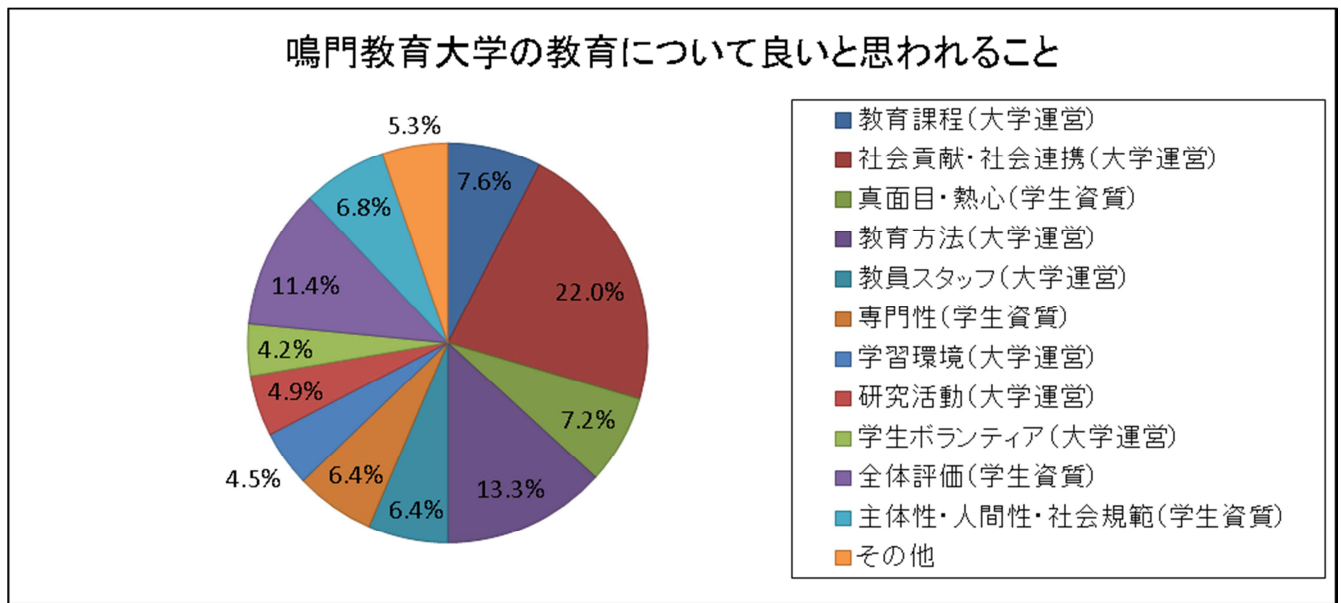


(グラフ 6)

(4) 鳴門教育大学・大学院の教育内容について、良いと思われること、改善すべき点又は要望（グラフ7，8）

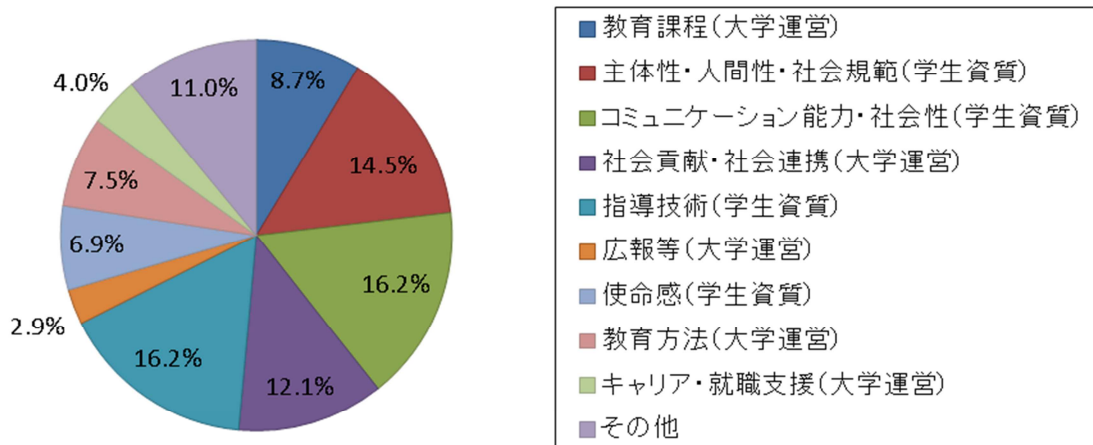
「良いと思われること」については、前回の調査では、最上位に、17.4ポイントで「教育課程」が挙げられていたが、今回の調査では7.6ポイントと10ポイント近く減少している。その反面、「社会貢献・社会連携（大学運営）」が10ポイント近く上昇している。これは、本学が実施・開催する学内外での活動が認知され、参加者等に良い印象を与えて来ていると考えられる。また、前回トップ項目であった「教育課程」は良いと思われることで大幅に減少しているが、改善すべき点についても10ポイント近く減少している。これらの件については、アンケート対象者の関心が、「教育課程」から大学が社会（学校）に対して、「何が出来るか」、「何をしてくれるか」に切り替わってきていると考えられ、より一層の社会貢献が求められていくこととなると考えられる。

また、改善すべき点又は要望として「主体性・人間性・社会規範（学生資質）」及び「コミュニケーション能力・社会性（学生資質）」が上位に挙がっており、教育面のみならず、人間性や社会人としての能力の涵養に努める必要がある。この点は、「鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力」として、「コミュニケーション能力・折衝能力」が高いポイントを得ている（グラフ5参照）こととも関連していると考えられ、重点的に取り組んでいく必要がある。



(グラフ7)

鳴門教育大学の教育について改善すべき点又は要望



(グラフ 8)